

記入日 2015年1月16日

1. 概要

| | | | |
|-----------|--------------------------|-----------------|---|
| 実践団体名 | 糸魚川市立大和川小学校 | | |
| 連絡先 | 025-552-3115 | | |
| プランタイトル | 大和川小発！ジオパークの海と向き合う地域防災教育 | | |
| プランの対象者※1 | 2, 3, 8, 9, 10 | 対象とする 災害種別※2 | 2 |

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

自然や歴史を担うふるさとを目指し目指した

を養う。活用し、子ども子ども子ども

七愛が育
ことがで

2. プランの年間活動記録 (2014 年)

| | プランの 立案と調整 | 準備活動 | 実践活動 |
|------|-----------------------|--------------------------|---|
| 4 月 | ○「防災教育チャレンジプラン」計画作成 | ○運動会への参加協力依頼（市消防署、地域消防団） | ○糸魚川世界ジオパーク学習：年間 ○防災教育に関する学習指導：年間 ○児童なかよし防災委員会の活動：年間 ○「防災教育掲示板」の常設：年間 ○校長や防災安全主任の講話：年間 ○異学年集団(縦割り班)活動：年間 ○学校(防災)便り全戸配付：年間 |
| 5 月 | ○「防災教育グランドデザイン」作成 | | ○普通救命法講習会（地域） ○防災教育を意識した運動会 |
| 6 月 | | ○地域防災会議（市総合防災訓練の打ち合わせ） | ○火災対応避難訓練の実施 ○通学路点検（国土交通省）1 回目 ○防災教育研修会（市内に還元） |
| 7 月 | | | ○地震体験車体験（5,6 年生児童） ○市総合防災訓練（洪水、土砂災害想定） ○通学路点検（国土交通省）2 回目 ○防災かべ新聞コンクールに参加 ○防災マップ作成（危険箇所点検） ○防災教育についてのアンケート |
| 8 月 | ○「防災教育グランドデザイン」見直し | ○チャレンジプラン中間発表資料作成 | ○防災教育研修会（消火栓放水訓練） ○子どもキャンプの実施（地域） |
| 9 月 | | | |
| 10 月 | ○「防災教育チャレンジプラン」計画の見直し | ○「防災教育チャレンジプラン」中間発表に参加 | |
| 11 月 | | | ○津波を想定した避難訓練 ○縦割り班での炊き出しの訓練 ○縦割り班対抗防災クイズラリー |
| 12 月 | | ○「チャレンジプラン」活動報告資料作成 | ○防災マップ作成（危険箇所点検） ○防災教育についてのアンケート |
| 1 月 | | | ○津波対応の避難訓練（屋上避難） |
| 2 月 | ○「防災教育グランドデザイン」見直し | ○「防災教育チャレンジプラン」活動報告に参加 | |
| 3 月 | | | |



3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1 】※3

| | |
|-----------------------------|--|
| タイトル | 糸魚川ジオパーク学習 |
| 実施月日（曜日） | 年間 |
| 実施場所 | 大和川地域 |
| 担当者または講師 | 担当者・講師等の区分：各担任 氏 名： 所属・役職等： |
| 所要時間または「コマ数×単位時間」 | 1、2年生50時間、3～6年生40時間 |
| プログラムのカテゴリ、形式※4 | 4、13 |
| 活動目的※5 | 10（地域への愛着をもつ） |
| 達成目標 | 自然に浸る学習を通して、地域への愛着をもつ。 |
| 実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー） | ○糸魚川世界ジオパークに浸る学習 ○地域の人財から学ぶ学習 |
| 準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等 | ・地域の講師の方々 |
| 参加人数 | 児童185名 |
| 経費の総額・内訳概要 | |
| 成果と課題 | 【成果】 ○「糸魚川世界ジオパークに浸る学習」「地域の人財から学ぶ学習」を通して、児童は地域への愛着と誇りをもつことができた。 ○恵みと同時に、災害も含めて学ぶことで、児童は、ふるさとでよりよく生きるには、どうしたらよいかを考えることができた。 |
| 成果物 | |

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 2 】※3

| | |
|-----------------------------|---|
| タイトル | 防災教育を意識した「運動会」 |
| 実施月日（曜日） | 5月24日（土） |
| 実施場所 | 大和川小学校グラウンド |
| 担当者または講師 | 担当者・講師等の区分：糸魚川市消防署、大和川地域消防団 氏 名： 所属・役職等： |
| 所要時間または「コマ数×単位時間」 | 1日 |
| プログラムのカテゴリ、形式※4 | 1 |
| 活動目的※5 | 8 |
| 達成目標 | 児童、保護者、地域住民の三者が一堂に会し、防災意識を高める。 |
| 実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー） | ○児童、保護者、地域住民によるバケツリレーの実施 ○防災の要素を取り入れた競技種目の実施 ○市消防署員による高所救助訓練の披露 ○大和川地域消防団による規律訓練披露 |
| 準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等 | ・学校：バケツ、水、ペットボトルなど ・市消防署：はしご車など ・地域消防団：消防車など |
| 参加人数 | 約500人 |
| 経費の総額・内訳概要 | |
| 成果と課題 | 【成果】 ○児童、保護者、地域住民の三者が一堂に会し、防災意識を高めることができた。 ○市消防署や地域消防団の防災への取組を知ることができた。 |
| 成果物 | |

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 3 】※3

| | |
|-----------------------------|--|
| タイトル | 地域防災会議 |
| 実施月日（曜日） | 6月26日（木） |
| 実施場所 | 大和川小学校 |
| 担当者または講師 | 担当者・講師等の区分：学校職員 |
| 所要時間または「コマ数×単位時間」 | 2時間 |
| プログラムのカテゴリ、形式※4 | 2 |
| 活動目的※5 | 3 |
| 達成目標 | ○学校の防災について、地域との情報の共有化を図る。 （1）糸魚川市総合防災訓練の準備をする。 （2）地域における子どもたちの安全・防災の現状をつかむ。 |
| 実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー） | ○糸魚川市総合防災訓練（洪水、土砂災害）における各地域の避難方法の情報交換を行い、共有化を図る。 ○子どもたちの安全・防災について、学校と地域で情報交換を行い、共有化を図る。 |
| 準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等 | ・地区ごとの児童名簿（安否確認用） ・事後アンケート用紙 |
| 参加人数 | 大和川振興協議会 約10名 |
| 経費の総額・内訳概要 | |
| 成果と課題 | 【成果】 ○糸魚川市総合防災訓練に向けて、準備状況を確認することができた。当日までの見通しをもつことができた。 ○学校が、「地域ごとの防災対応」を把握することができた。 ○地域ごとの防災への取組を、全地域、学校、PTAで共通理解することができた。 |
| 成果物 | |

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。


【実践プログラム番号： 4 】 ※3

| | |
|-----------------------------|---|
| タイトル | 糸魚川市総合防災訓練（洪水、土砂災害対応）に参加 |
| 実施月日（曜日） | 7月5日（土） |
| 実施場所 | 大和川地域の四箇所 |
| 担当者または講師 | 担当者・講師等の区分：糸魚川市役所、糸魚川市消防署 氏名： 所属・役職等： |
| 所要時間または「コマ数×単位時間」 | 半日 |
| プログラムのカテゴリ、形式※4 | 1、16 |
| 活動目的※5 | 4 |
| 達成目標 | 自宅や町内滞在時に、安全に避難することができる。 |
| 実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー） | <ul style="list-style-type: none"> ○市内一斉に、サイレン警報、緊急放送 ○第1避難場所へ避難する。 ○第2避難場所へ避難する。 ○市職員、市消防署職員、地域代表者の話 |
| 準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等 | <ul style="list-style-type: none"> ・調査（参加児童を事前に確認） ・地区ごとの児童名簿（安否確認用） ・事後アンケート用紙 ・アンケート結果集約 |
| 参加人数 | 1地区あたり約500人 |
| 経費の総額・内訳概要 | |
| 成果と課題 | 【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ○自宅や町内滞在時の、避難場所や避難経路が分かった。 ○家族や地域住民と一緒に協力して避難することができた。 ○学校、家庭、地域の防災意識が高まった。 |
| 成果物 | |

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 5 】※3

| | |
|------------------------------|---|
| タイトル | 防災教育研修会 |
| 実施月日（曜日） | 8月22日（金） |
| 実施場所 | 大和川小学校 |
| 担当者または講師 | 担当者・講師等の区分：糸魚川市消防署員 氏 名： 所属・役職等： |
| 所要時間または 「コマ数×単位時間」 | 2時間 |
| プログラムの カテゴリ、形式※4 | 2 |
| 活動目的※5 | 6 |
| 達成目標 | ○学校における防災教育の進め方について考える。 ○校内に設置されている消火栓の使い方を知る。 |
| 実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー） | ○糸魚川市消防署員の講話 ○消火栓放水訓練 |
| 準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等 | ・配付資料 ・消火栓 |
| 参加人数 | 約15名 |
| 経費の総額・内訳概要 | |
| 成果と課題 | 【成果】 ○教職員が、「学校における防災教育の進め方」について考えることができた。 ○教職員が、「消火栓の使い方」を知ることができた。 |
| 成果物 | |

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 6 】※3

| | |
|------------------------------|--|
| タイトル | 国土交通省共催の通学路点検 |
| 実施月日（曜日） | 6月6日（金）、7月8日（火） |
| 実施場所 | 大和川小学校校区 |
| 担当者または講師 | 担当者・講師等の区分：国土交通省 高田河川国道事務所 糸魚川市役所、 保護者、区長 |
| 所要時間または 「コマ数×単位時間」 | 1時間 |
| プログラムの カテゴリ、形式※4 | 1 |
| 活動目的※5 | 8 |
| 達成目標 | ○通学路における危険箇所について考える。 ○通学路点検を通して、防災に対する意識を高める。 |
| 実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー） | ○通学路点検のやり方を確認する。 ○下校しながら、通学路の危険箇所を点検をする。 |
| 準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等 | ・帽子、水筒 |
| 参加人数 | 約220人（大和川小学校の児童、保護者、区長、講師） |
| 経費の総額・内訳概要 | |
| 成果と課題 | 【成果】 ○児童は、通学路における危険箇所を知ることができた。 ○通学路点検を通して、児童は、防災に対する意識（危険察知能力）を高めることができた。 |
| 成果物 | |

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 7 】※3

| | |
|------------------------------|--|
| タイトル | 地震による津波を想定した避難訓練 |
| 実施月日（曜日） | 11月6日（木） |
| 実施場所 | 大和川小学校グラウンド 桜ヶ丘公園忠魂碑（高台） |
| 担当者または講師 | 担当者・講師等の区分：学校職員 |
| 所要時間または 「コマ数×単位時間」 | 1時間 |
| プログラムの カテゴリ、形式※4 | 1、16 |
| 活動目的※5 | 4 |
| 達成目標 | ○地震による津波発生時の避難方法を理解し、安全に避難することができる。 |
| 実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー） | ○地震発生（放送をしっかりと聞く） ○第1避難（グラウンドに集合） ○第2避難（桜ヶ丘公園忠魂碑へ移動） ○校長の講話 ○学校へ戻る |
| 準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等 | ・学級旗 ・児童名簿 |
| 参加人数 | 児童185人、区長 |
| 経費の総額・内訳概要 | |
| 成果と課題 | 【成果】 ○児童は、地震による津波発生時の避難方法を理解し、安全に避難することができた。 ○児童は、ペア学年の児童同士で協力し合い、安全に避難することができた。 |
| 成果物 | |

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 8 】※3

| | |
|-----------------------------|---|
| タイトル | 炊き出し体験活動 |
| 実施月日（曜日） | 11月6日（木） |
| 実施場所 | 大和川小学校グラウンド |
| 担当者または講師 | 担当者・講師等の区分：学校職員 |
| 所要時間または「コマ数×単位時間」 | 3時間 |
| プログラムのカテゴリ、形式※4 | 1、13、16 |
| 活動目的※5 | 7 |
| 達成目標 | ○炊出し活動を行い、防災についての意識を高める。 ○縦割り班での協力を通して、仲間を思いやる心を育てる。 |
| 実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー） | ○縦割り班ごとに、グラウンドに集合 ○かまどの火起こし、薪を運ぶ ○鍋の水を準備する。 ○調理材料を運ぶ。 ○ご飯を炊く。 ○豚汁を作る。 ○火の管理をする。 ○会食をする。 ○後片付け |
| 準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等 | ・かまど24、薪、うちわ12、トング12、チャッカマン、鍋24、さいばし12、おたま12、金ざる12、クレンザー、スポンジ、タワシ、 ・簡易炊飯袋230枚 ・米、肉、豆腐、みそ…230人分 ・玉ねぎ、人参、じゃがいも…各自家から自分で切って持ってくる ・お椀2つ、箸、ふきん、敷物、水筒、軍手 ・焚き付け用牛乳パック |
| 参加人数 | 児童185人、区長4人 |
| 経費の総額・内訳概要 | 26,825円 |
| 成果と課題 | 【成果】 ○炊出し活動を行った結果、児童の防災意識が高まった。 ○縦割り班での活動中に、児童の「仲間を思いやる行動」が随所にみられた。 ○炊飯体験により、児童は生活力を向上させた。 |
| 成果物 | |

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 9 】※3

| | |
|-----------------------------|---|
| タイトル | 縦割り班対抗 防災クイズラリー |
| 実施月日（曜日） | 11月19日（水） |
| 実施場所 | 大和川小学校 体育館及び各教室 |
| 担当者または講師 | 担当者・講師等の区分：学校職員 |
| 所要時間または「コマ数×単位時間」 | 1時間 |
| プログラムのカテゴリ、形式※4 | 1 |
| 活動目的※5 | 1 |
| 達成目標 | ○縦割り班で協力しながらクイズラリーをすることを通して、防災についての意識を高める。 ○友達を思いやる心を育てる。 ○高学年児童のリーダーの育成を図る。 |
| 実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー） | ○開会式 ○クイズラリー ・防災に関するクイズを協力して解く。 ・人間知恵の輪、風船バレーをする。できたら得点。 ○閉会式 |
| 準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等 | ・防災クイズ11問 ・解答用紙 ・風船 ・賞状 |
| 参加人数 | 児童185人 |
| 経費の総額・内訳概要 | |
| 成果と課題 | 【成果】 ○児童の防災の意識が高まった。 ○仲間を思いやる姿が随所に見られた。 ○高学年児童がリーダーシップを発揮する場面が多々見られた。 ○クイズを解く活動を通して、児童の防災知識が深まった。 |
| 成果物 | |

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

| | |
|---|---|
| <p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p> | <p>○校内組織の「企画運営委員会」の場で、防災教育やチャレンジプランの実践にかかわる検討事項、実施後の反省・改善について、十分に話し合うことができた。</p> <p>○「児童の共生の心の耕し」にかかわっては、糸魚川世界ジオパーク学習を進める中で、教職員が常に意識をして、児童の指導に当たった。また、「防災教育の活動」と「児童会活動、縦割り班活動」をリンクさせたことで、児童に効果的に防災意識と行動力を身に付けさせることができた。</p> <p>△「防災教育に関する実践例」が、まだまだ少ないので、講師の選定などの情報収集で、前例に当たることができない。そのため、実践の計画や準備に大変時間が割かれる。</p> <p>△教職員の共通認識を深め合う時間の確保が難しかった。</p> |
| <p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p> | <p>△「防災教育を行うための経費」をどこから捻出していくかが今後の課題である。</p> <p>△一部の職員に計画・準備の負担が集中してしまった。校内の組織体制、役割分担の見直しが必要である。</p> <p>△他団体と協力・連携して活動を展開する際、防災教育に関しての各々の立場や考え方が違うので、準備日程や当日日程を調整すること（すり合わせる）が大変であった。</p> |
| <p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p> | <p>○「児童に日常的に、防災意識をもってほしい」と願い、「日常防災活動（年間を通しての取組）」に力を注いだ。日常的に児童の防災意識が高まった。</p> <p>△「校内の他の行事との調整」「他の関係団体との調整」などが、上手く行かず、防災教育の学習・行事が7月と11月に偏ってしまった。今後、学習や行事に偏りが出ないように、防災教育の活動を精選・調整していく必要がある。</p> |

5. 他の団体、地域との連携

| 協力・連携先の分類 | 団体名、組織名 | 協力・連携の内容 |
|-----------------------------|--|---|
| 学校・教育関係・ 同窓会組織 | | |
| 保護者・ PTAの組織 | ○大和川小学校 PTA | ○「防災教育の要素を取り入れた運動会」の実施 |
| 地域組織 | ○大和川振興協議会 ○大和川地域消防団 | ○「地域防災会議」の実施 ○「子どもキャンプ」の実施 ○「規律訓練」披露 |
| 国・地方公共団体・ 公共施設 | ○糸魚川市消防本部 ○糸魚川市役所 ○国土交通省 ○県地域振興局 ○糸魚川警察署 | ○「高所救助訓練」披露 ○「地震体験車体験」の講師 ○「防災教育研修会（教職員）」の講師 ○「火災対応避難訓練」「煙体験」の講師 ○「市総合防災訓練」に参加 ○「通学路点検」に協力 |
| 企業・ 産業関連の組合等 | | |
| ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等 | | |
| 職業、職能団体・ 学術組織、学会等 | | |

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

| | |
|--------------------------------|--|
| <p>成果として 得たこと</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○長野県北部地震（11月22日22:08頃、震度4）発生の際、60%以上の家庭が対応することができた。 ○「糸魚川世界ジオパーク学習（ふるさと学習）」の中に「防災教育」が含まれるという位置づけをした。それにより、児童は自然環境のもつ両面（恵みと災害）を関係付けて考え、自然との共生の生き方について認識を深めることができた。 ○各学年（学級担任）が創意工夫し、年間を通して、「糸魚川世界ジオパークで学ぶ、ふるさと大好き学習」を展開した。地域に愛着をもつ児童が育っている。 ○様々な「日常防災活動」を実践したことで、児童の防災意識が高まった。 ○様々な「日常防災活動」や「防災行事活動」を実践したことで、児童に「安全に避難するための知識、感覚、判断力、行動力」が、身に付いてきた。 ○共生（自然との共生、人との共生）を大切にして、防災教育を進めてきた。その結果、児童は、自然を受け止め、仲間同士で協力し合い、助け合えるようになってきた。 ○児童の生活経験の幅が広がり、生活力が向上している。 ○保護者からも「子どもの生活力が向上した」という声が聞かれた。 ○「防災教育を学校・保護者・地域の三者で考える機会」を設けてきた。三者が協力して、防災教育を進める連携体制ができた。 ○学校、家庭、地域、関係機関の連携が確立された。 ○学校、家庭、地域の防災への意識が高まった。 |
| <p>全体の反省・ 感想・課題</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○三者（学校、保護者、地域）の連携体制が整ってきた。しかし、実際の災害を想定したとき、三者は、さらに「互いの顔が分かる」「気心が通じる」「防災への温度差が小さい」関係を築いていかなければならない。 |
| <p>今後の 継続予定</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○2013年度、2014年度と2年間、防災教育チャレンジプランに参加した。防災教育に対し、教職員、児童、保護者、地域住民が本気になって考え、連携したことで様々な成果を得た。 ○今後も、「日常防災の取組」と「学校・保護者・地域の連携」を大切にし、「いつでも、どこでも、防災の術を活用し、自分の命は自分で守る、みんなの命はみんなで守る子ども」を育成していく。 ○糸魚川世界ジオパーク学習のさらなる充実を図っていく。 |

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

糸魚川世界ジオパーク学習（ふるさと大好き学習）

「大自然に浸り、自然や人々から学ぶ子どもたち」



学校の目の前にある「大和川海岸」を清掃



「大和川野菜」を収穫、調理



親子で、地域の「里山」で学習



「県立海洋高校の実習船」を体験



「糸魚川コシヒカリ」を栽培、収穫



地域を流れる「前川」で生き物探し

(自由記述： 1 / 3)

防災を仲間とともに学ぶ（自立と共生）

「自分の命は自分で守る」「みんなの命はみんなを守る」子どもたち



地震体験車で「中越地震、中越沖地震」を体験



異学年集団（縦割り班）で交流給食



地震による津波を想定した避難訓練
「ペア学年で協力して高台へ避難」



炊き出し訓練
「火を起こし、ご飯、豚汁作り」



縦割り班対抗 防災クイズラリー
「防災に関するクイズを出題」



月1回の「縦割り班遊び」
「知恵を出し合い、課題を克服」

(自由記述： 2 / 3)



地域に広がる防災教育（学校と地域が情報を共有）

「防災教育で、つながる」学校、子ども、保護者、地域住民



防災教育を取り入れた運動会
児童、保護者、地域住民による「バケツリレー」



地域消防団による「規律訓練」披露



地域防災会議
「糸魚川市総合防災訓練打ち合わせ」



糸魚川市総合防災訓練に参加
「洪水・土砂災害」対応避難訓練



合同通学路点検
「国土交通省、県、市、警察、地域が連携」



普通救命法講習会
「学校、保護者、地域が連携」

(自由記述: 3/3)